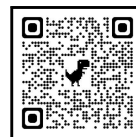




創立148周年

奄美市立市小中学校学校だより 令和5年7月号

# とびら島



ブログ



ホームページ

## 先人への尊崇と感謝

校長 中山 克彦

今年には奄美群島日本復帰70周年です。前号でふれたことについて、多くの方から経験談や復帰祝いの様子等お話を聞くことができ、うれしく思うことでした。

さて、今号では「奄美群島日本復帰50周年記念「郷土の先人に学ぶ第5集」の中で「青久の石垣防波壁」のことにふれて書きたいと思います。以下、内容をかいつまんで紹介します。

現在のように、重機を使って土木工事をするのが難しかった昔、先人は自分たちの生活を守るため、集落民総出で土木工事を行っていました。「青久(オク)の石垣防波壁」もその一つです。

強い南風が吹くと非常に大きなターシュー(高潮)が集落の民家の庭先まで来て、毎年農作物が被害を受け、住民の方は大変困っていました。浜に何度もアダンを植林しましたがターシューに流されてしまいました。このため、集落では防潮堤の建設が提案されました。1948年(昭和23年)、当時の徳徳益区長は手漕ぎ船は住用村役場まで半日がかりで出かけ、当時の浜崎要範村長に陳情しました。村長は数日後現地視察して実情を理解し、琉球政府(この頃奄美群島は連合国の統治下)に願い出て政府直轄事業として防潮堤の工事が決まりました。

1950年着工となりましたが、政府直轄事業といっても、ブルドーザーやパワーショベルもなく、すべてが人力で行われ、作業員も青久に住み、シマンチュ(集落民)も漁や山仕事を休んで作業しました。陸路9kmの峠道で隔てられた市集落からも作業員として多くの参加がありました。子どもたちも炊き出しや簡単な作業を手伝ったそうです。

作業は、まず山に自生するカディラ(かずら)でかごを編みました。そして一本のカディラの両端をかごに取り付け、オーコ(担ぎ棒)で担げるようにしました。大きい石は、このかごに乗せ、二人一組で運び、小石や砂は、板でハク(箱)を作り運搬しました。ここで使った丸石、砂利、砂はハマ(浜)から採りました。大石を防波堤の中心に据え、その周りに中小の丸石を積み、表面の石と石の間に請負業者がセメントを詰めて接着しました。工事の途中にはターシューが来たり、9月から11月にかけてはテーフ(台風)が来たりして、せっかく積んだ石組みが崩れて振り出しに戻ることがありました。そのような苦労を繰り返しながら、1955年(昭和30年)、6年・6期に渡る大工事は完了し、全長約280m、高さ約2~3mの防波壁が完成しました。工事に関わった人数は、のべ8180人でした。

執筆者の森山重敏さんは、この話のしめくくり、この防波壁のことを「故郷で心を一つにして生きた財産」と表現しています。

私も読み終わって、先人への尊崇と感謝の思いで胸がいっぱいになりました。そして、このような先人が為したことや思いを継承し、新たな学びとしてこれからの人生・次の世代に生かしていかなければ、と強く思うことでした。



【昭和28年祖国復帰祝い・住用 (画像提供奄美市)】



【防波壁完成時の写真(昭和30年3月)】

## 住用3校での取組の様子



### 住用3校合同宿泊学習（小学部）



6月13～15日に住用地区3小学校の高学年による合同の宿泊学習が行われました。

奄美少年自然の家での2泊3日の宿泊学習でしたが、梅雨時期ということもあり、室内での活動が多かったです。

その中でも他校の友達と一緒に活動を楽しむことができました。

### 住用3校合同社会科見学（小学部）

6月16日に小学校1,3年生は、住用地区の他の学校と「社会科見学」に行きました。

消防署や浄水場、図書館をまわり、世の中にはいろいろな仕事があることを学ぶことができました。



## 校内水泳大会

みんな自分の目標に向かって全力で泳ぎました！目標を大きく縮めることができ、笑顔いっぱいの水泳大会でした。



## その他の活動



子供たちも自分の夢を短冊に書き、飾りと共に笹に結び付け校舎玄関に飾っています。ぜひご覧ください。

## 9月行事予定

### 【9月】

- 1日(金)二学期始業式 朝の登校指導
- 4日(月)中3 実カテスト
- 5日(火)B校時、学級PTA
- 9日(土)土曜授業 運動会準備
- 10日(日)校区合同秋季大運動会
- 11日(月)振替休日
- 15日(金)八月踊り伝承会
- 26日(火)きらり推進部会
- 27日(水)中1 職場体験学習（～28日）
- 29日(金)身体計測

人権の花運動開講式

不審者対応訓練

夏のふるさと学舎